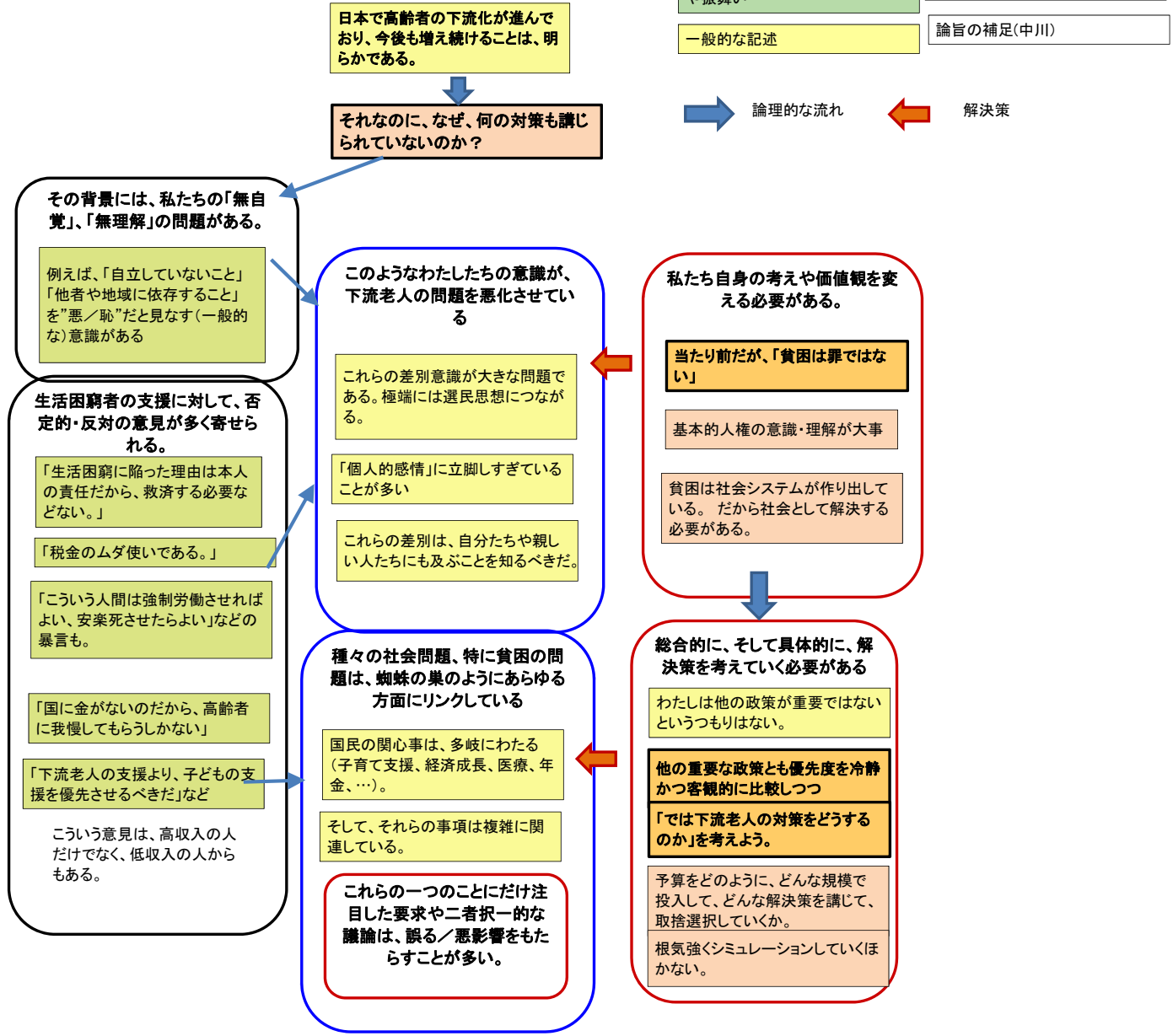


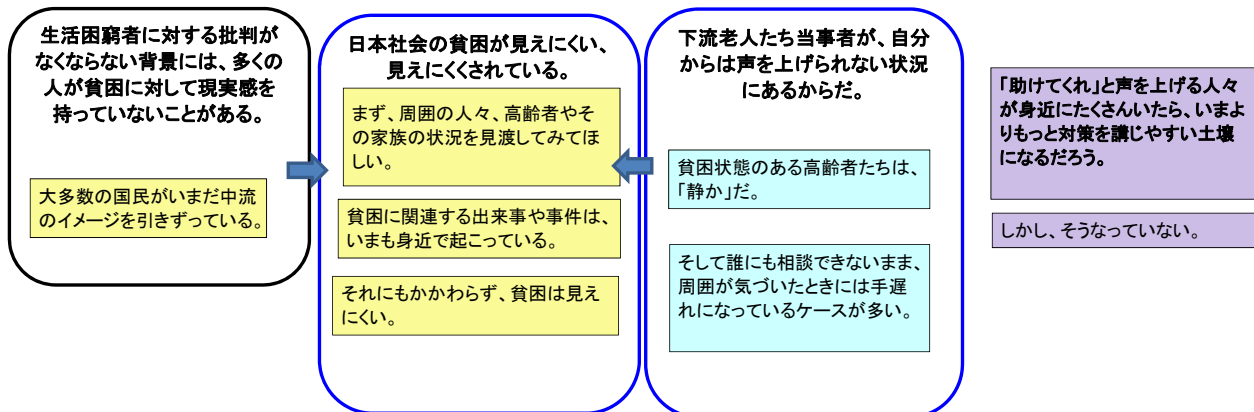
第4章 「努力論」「自己責任論」があなたを殺す日 第4章 意識と理解の問題

生活困窮者の支援活動に対する否定的意見（国民中のかかりの人の意識）	掘り所とすべき基本的な考え方
生活困窮者/下流老人自身の意識や振舞い	行政の現状、対応
一般的な記述	今後の方向への考察
	論旨の補足(中川)

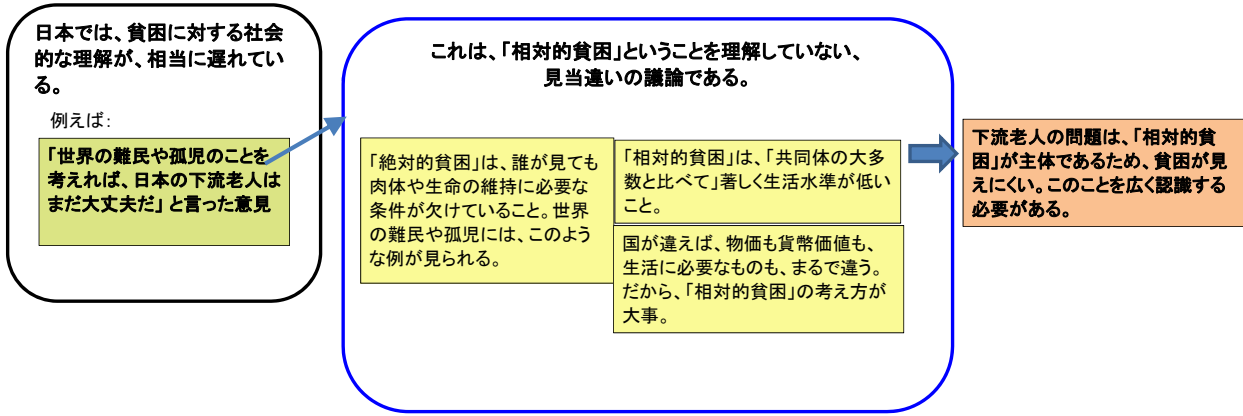
[0] はじめに：問題の状況と方向の概要



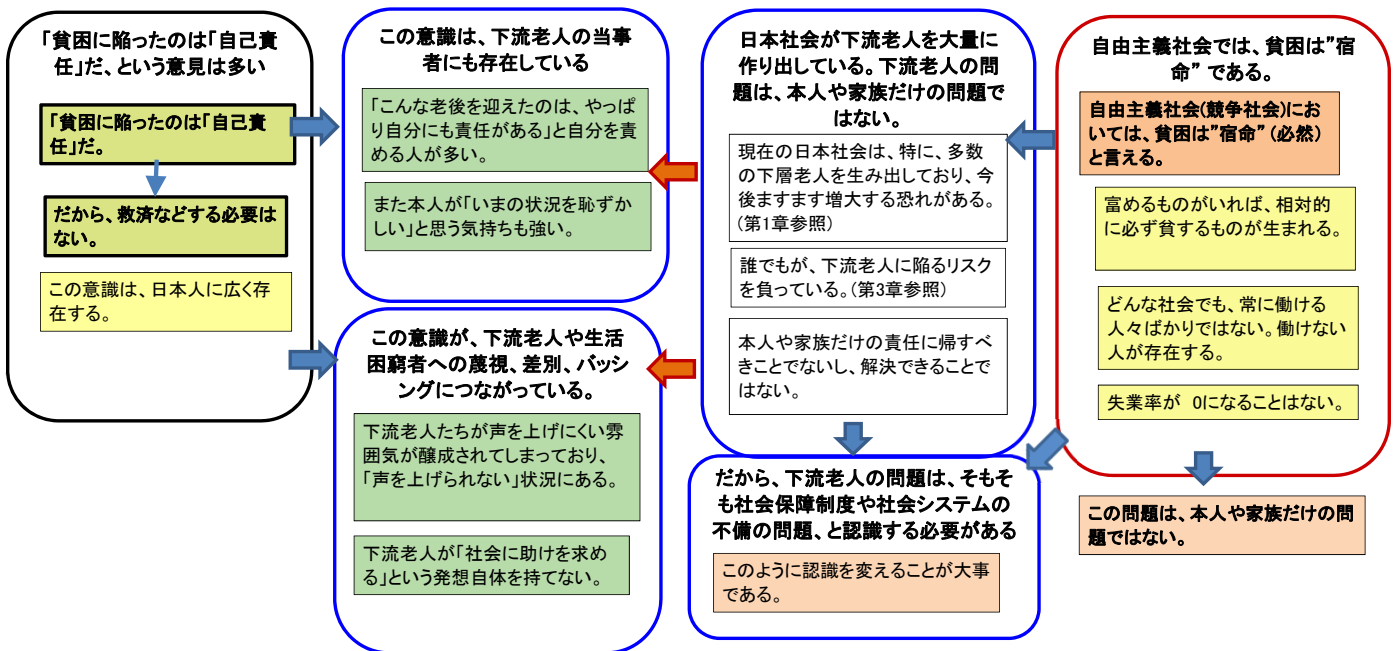
[1] 貧困が見えにくい



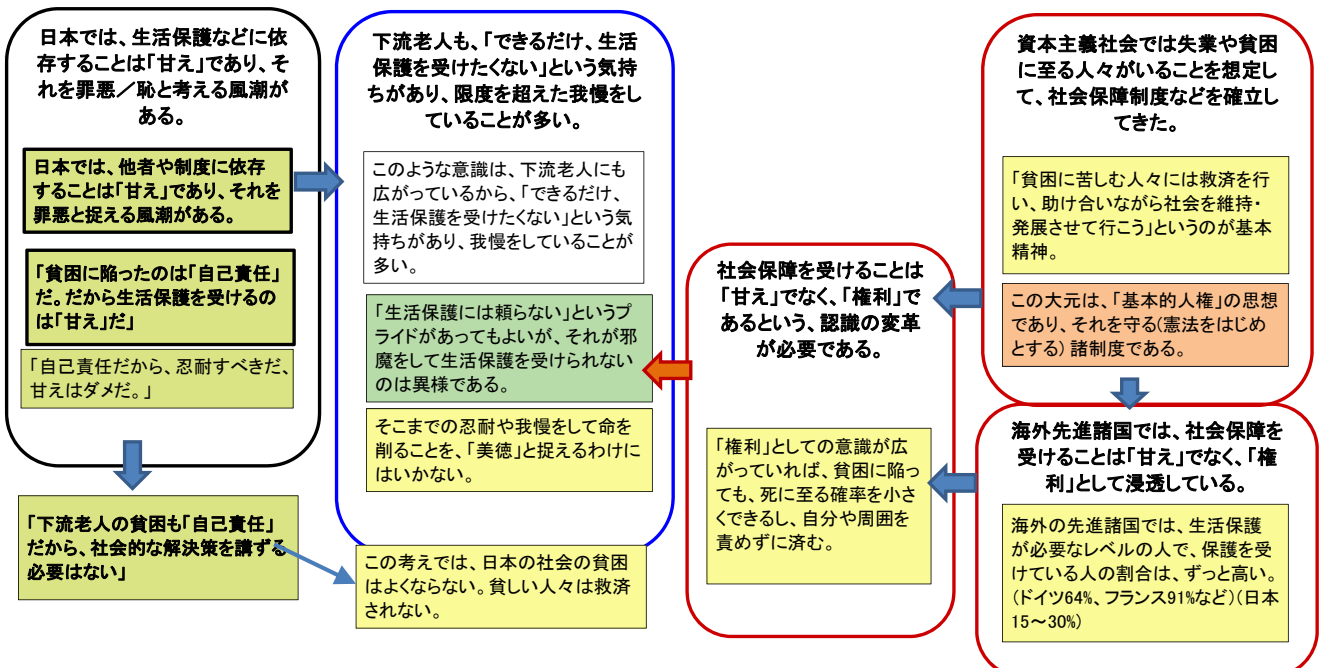
[2] 貧困の理解(「絶対的貧困」と「相対的貧困」)



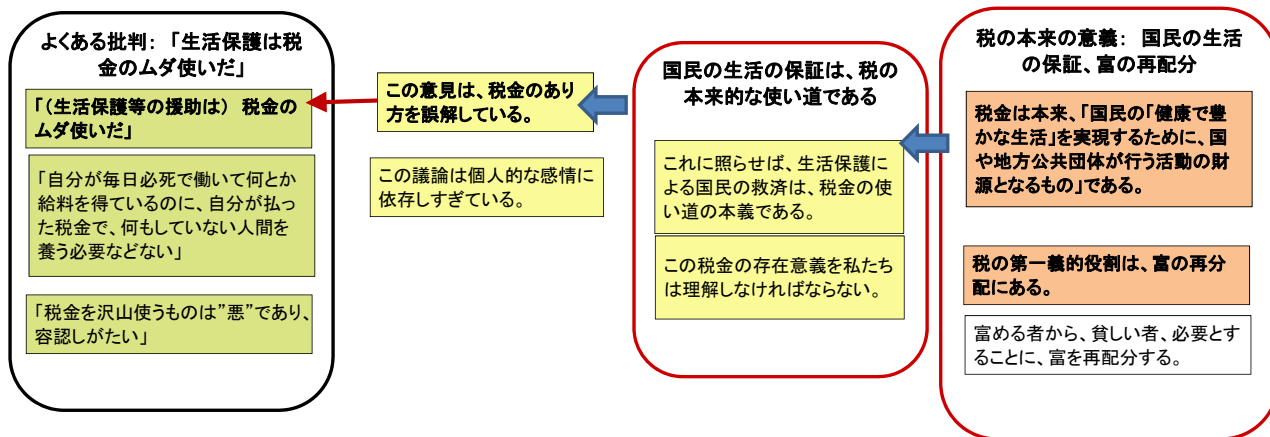
[3] 貧困は自己責任か？—貧困が起きることは、自由主義社会の宿命である



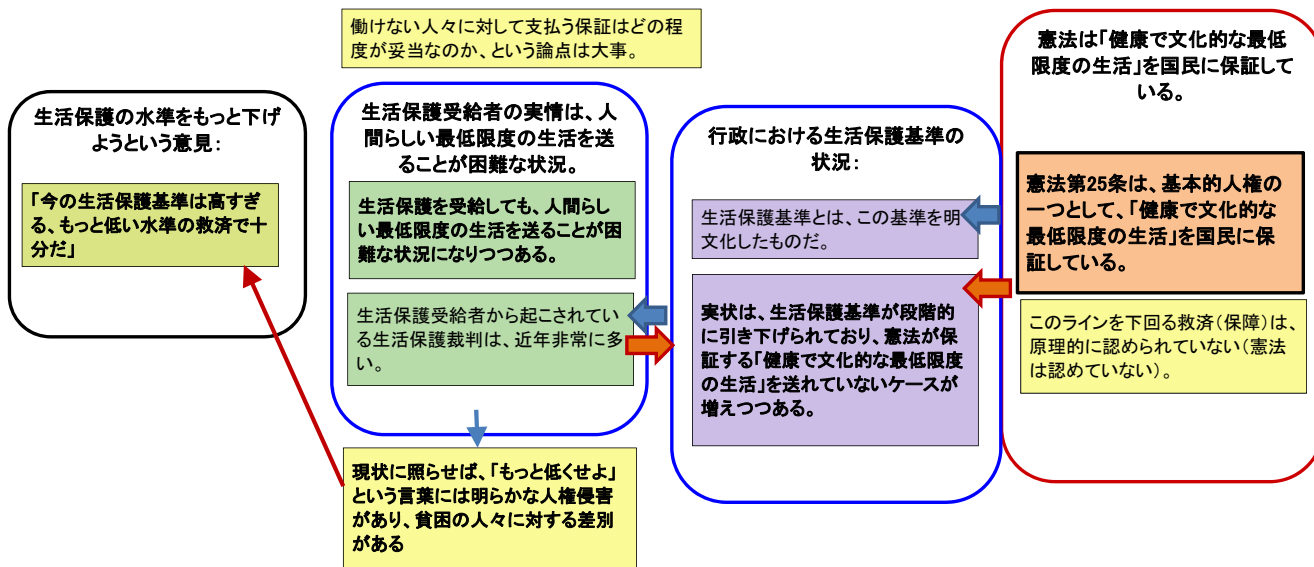
[4] 社会福祉(生活保護)を受けるのは「甘え」だと考える風潮。—憲法に保証された権利である



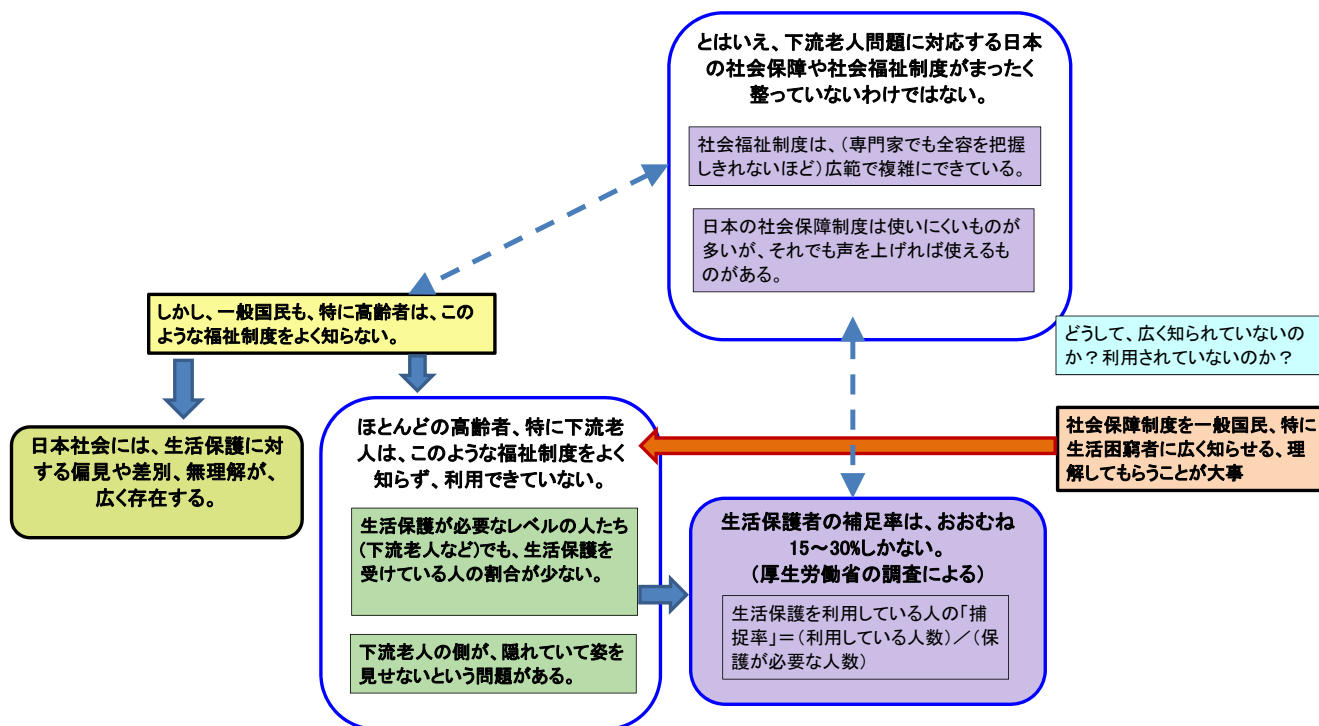
[5] 生活保護は税金のムダ使いか？ — 税金の本来の意義



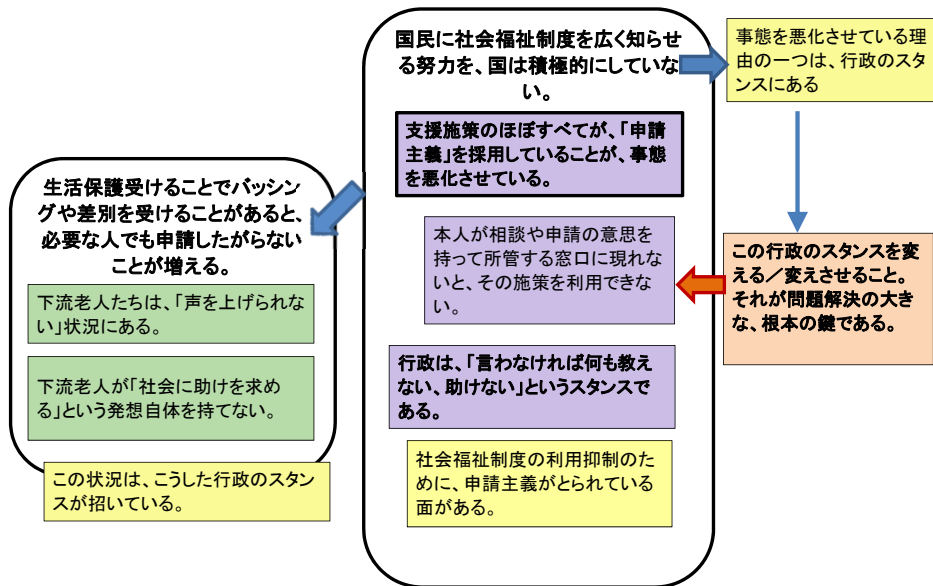
[6] 生活保護の水準は？ — 憲法が保証している「健康で文化的な最低限度の生活」



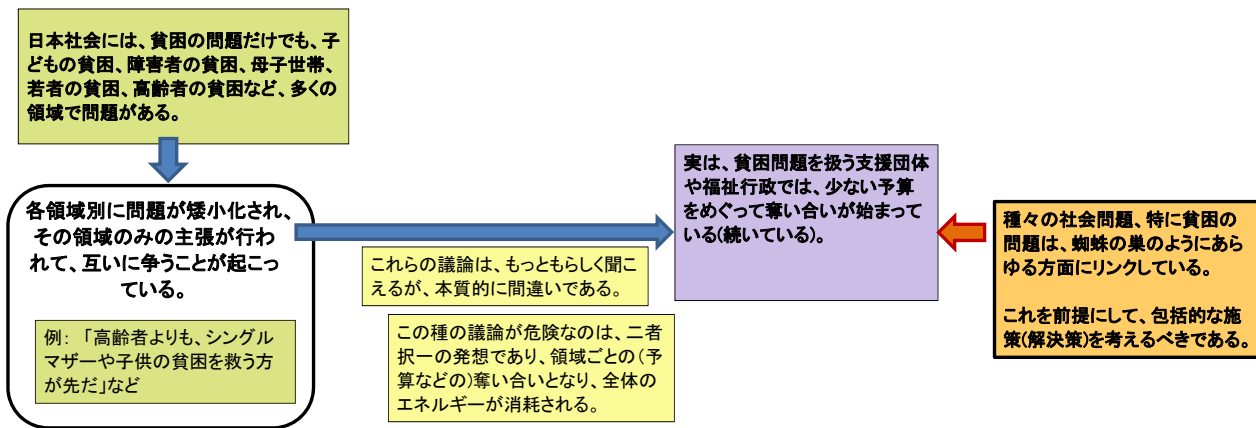
[7] 日本の社会福祉制度 — あるのによく知られていない、使われていない



[8] 日本の福祉行政のスタンスの問題 —— 「本人が言わなければ、教えない、助けない」



[9] 「下流老人よりも、子どもが先」か？ —— 個別視野の議論による財源の奪い合いの弊害



[10] 解決すべき方向の考え方 —— 領域を跨る総合的な政策とその中の各領域の解決策

